

カリフォルニア・スプリングフラワートライアルツアーを企画して

矢 祭 園 芸

金 澤 美 浩

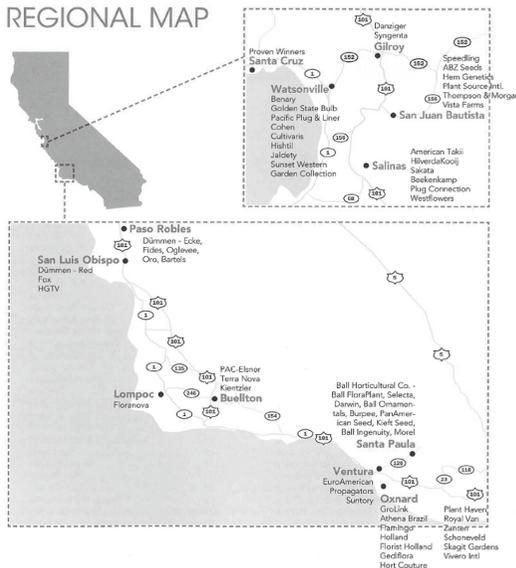
私共、全国新品種の会は、日本種苗関連6団体の1団体であり、野菜・花卉・花木・果樹・イチゴ等を農林水産省に品種登録をした個人育種家で構成（会員80名）された団体です。今年で創立28年目を迎えることとなりました。

東日本大震災以来、園芸界を取り巻く環境が大きく変化しております。特に私の所属する花卉業界はこのほか深刻に感じられます。この構造不況を打破するために、アメリカ合衆国での生産や販売手法や店舗と生産者の連携方法などを現地で学ぶことは、明日の実践に役立つと信じております。

育種家・生産者・市場・物流・販売店などの明日の花卉業界を何とかしたいと考える人たちと、世界で一番早く開催されるカリフォルニア・スプリングトライアルへの視察で交流を図ることで、新しいアイデアや消費者への提案がその中で生まれると確信しております。

このような目的でツアーを企画し36名の参加人数となりました。

REGIONAL MAP



(1) サカタのタネ サリナス農場



結 団 式

成田空港内において結団式を行ない、今回のツアーの目的を確認し、一路サンフランシスコに出発しました。私は一昨年に引き続き2度目のツアーになり、どのくらい育種が進展しているのかがとても興味深く楽しみでした。また米国には日本やEUのように小さなサイズの鉢物を飾るという習慣があまり無いように思われ、屋外のビッグな吊り鉢やコンテナ鉢、広く大きな庭、花壇、どれをとってもスケールが大きく、それを彩る花々やアレンジメントも楽しみの一つでした。



ツアーに参加していただいた是永課長さんによる説明がありました。今世界的な大ヒットになっているサンパチエンスやペチュニア、カリブラコア、オステオスペルマム、メカルドニア、その他、たくさんの自社開発品種が展示されていました。その中で日本の個人育種家のペチュニアが展示されていました。今後サカタのタネ社以外に育種された品種でも広く海外へ紹介して下さるとのことで、海外にネットワークを持っていない個人育種家にとっては誠にありがたい話です。

(2) シンジェンタ・フラワー



多くの育種会社を傘下に持つ世界有数の種苗会社で、日本人スタッフによるわかりやすい説明をいただきました。その中で私が目を引いたのはペチュニア、ペンステモンや鉢植えの菊、そしてゼラニウムで完成度の高い品種がディスプレイされていました。かつてはゴールドスミス社の農場兼オフィスだったと伺い、周辺のデザイン化された庭と多彩な植物群に納得しました。清水部長さんや高村マネージャーさんにお世話になりました。

(3) ダンジガー社

花壇用の栄養系の花々が主体と切り花の育種開発し

ている会社で、カリブラコアを始めバーベナ、マーガレット、パコパ、セネシオ、ビデンス、その他多くの品種を見ることができました。開発品種の特徴は耐病性や耐暑性に重点をおいて育種をされているとのことです。日本国内では高松商事やハクサンを筆頭に数社が販売代理をしております。

(4) アーネスト・ベナリー社



「ベナリーと言えばペゴニア、ペゴニアと言えばベナリー」と日本国内でも知られているなじみの老舗種苗会社です。ペゴニアを始めパンジー、インパチエンス、バーベナ類から栄養系、宿根草類まで幅広く育種開発をして全世界120ヶ国に種苗の輸出をしています。1843年の創立以来9世代に渡り花の業界をリードして来たことはすばらしいことです。

(5) プルーブン・ウィナーズ (PW)



マーケティングやプロモーションを展開して今までの種苗会社とは立ち位置が異なります。世界中の育種家から新品種を集めて試験栽培を繰り返し有望な品種を育苗からラベルや鉢のデザイン、販売店の陳列、アンケートや消費者目線での情報収集に至り、分析をして販売促進のための多額のプロモーション費用をかけ

て世界的に PWとしてのブランディングに成功しており日本の育種家の品種が数多く採用されています。「フローラ21」の坂寄潮氏の育成したペチュニアやカリブラコアは PWにおいてもメインの商品と言えます。忘れてならないのは今回このツアーに参加し、また当会の役員でもある関口政行氏のオステオスペルマムは世界的に大ヒットして PWを知らしめたことが記憶に新しいかと思えます。日本国内ではハクサンが PWのメンバーで海外の PWの種苗を紹介しております。展示会場にはペチュニアやカリブラコアを始めビオラ、ダリア、ビデンス、ダイアンサス、その他たくさんの栄養系の品種がありました。

(6) デュメン・グループの展示会場



フィデス、エッケ、レッドフォックス、バルテル社、他数社とグループ構成しておりました。ドイツ人の几帳面さが漂う雰囲気のある会場では、どこの種苗会社とも同じような品種ペチュニア、カリブラコア、ニューギニアインパチエンス等、飾ってありました。開花姿が一条乱れず、矮化剤を一切使用して無いとの事で高品質に仕上がる育種力には驚きました。日本国内の代理窓口であるカクタス長田さんに会うことができ大変お世話になりました。

(7) フローラノバ社



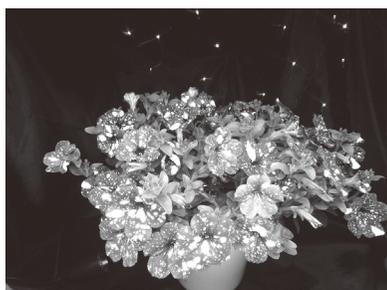
ハンギング用の球根ベゴニアやペチュニアのフリンジ咲きなど、他社には見られない物がありました。家庭用野菜もあり、果房が1メートルもあるかと思えるミニトマトや、大きなハンギング鉢で作られたセンナリホオズキ等で、展示も圧巻でパフォーマンスに感心しました。

(8) グリーンフーズ



元の種苗会社は米国で有名なボジジャーボタニカル社で現スティーブ社長が買い取り、始めました。日本国内で第一園芸との取引があり、佐藤和規さんの「ピスタ・エスエス」を通して私と小林孝之さんが米国での販売に踏み出すことができました。宿根草がメインで、低温感応性が無い品種を開発しており、室内でのストレプトカーパスやレックスベゴニアなどもあります。アジサイの半製品苗などもありました。

(9) ボール・シード



世界で最大の種苗会社で、世界18ヶ国に関連会社を持つグループ企業です。シード開発はパンアメリカン社、栄養系はセレクトタ社、宿根草類はダーウィンペニアル社、その他たくさんの育種会社と提携しております。展示されている種類も豊富でペチュニア、カリブラコア、ベゴニア、アングロニア、コリウス、ダリア等、いろんな品種が所狭しと展示されていました。歓迎の挨拶をボールグループの総帥のアンナ社長直々にいただき感激しました。

(10) サントリーフラワーズの展示会場



太平洋が一望できる景色の良い公園内にあり、すばらしい品種群の中にセネシオの新花や今回参加していただいた佐藤和規氏の育種開発されたビデンスと福岡県的小林泰生氏のコマが紹介されておりました。世界的にヒットして欲しい品種です。

(11) ドリスコール社



ベリー類の育種から生産販売、輸出まで幅広く活躍している世界最大規模のドリスコール社を見学することができました。全米で27パーセントのシェアを持つと言われてます。従業員とパート合わせて5万人が働いているとの事です。イチゴ、ラズベリー、ブルーベリー、ブラックベリー、会社説明を聞きながら試食させていただきましたが、日本国内でのものとはかなり違い「実が固く日持ちが良く賞味期限も長い、でも甘い」イチゴでした。今後この様な日持ちや輸送性に優れた品種を育成しなければと痛感しました。

このツアーに参加した感想を一言で言うならば、消費者の期待感を裏切らない品種創りと製品造りしなければならないと思いました。暑さ、寒さに耐える事は元より病害虫にも強く、更にカリフォルニア州のように永年水不足で芝生にまで制限されているという事態、乾燥に強い性質をも持ち備えた性質、これらの条件を視野に入れながらより美しく、より永く咲き続ける品種をめざして、皆で協力して研究すれば必ず出来ると思います。会員は元より園芸に関わりのある多くの方々と同じ目線で、米国の花卉園芸の現状を垣間見ることが出来たことが大変有意義な研修でした。ツアーは終わりましたが、出会いのきっかけとなり、交流（異なる地域・組織・系統の人々が往來すること）を深め、世界をアッと叫ぶ花々を咲かせましょう。